

平成30年度事業報告書

法人の名称 **特定非営利活動法人バーンロムサイジャパン**

1 事業の成果

今期(17期)も引き続きタイ・チェンマイにある子どもたちのための生活施設「Ban Rom Sai Children's Home」や、周辺地域の社会的に困難な立場にある人々の支援活動を行いました。HIVに母子感染した孤児だけではなく、年々増加している犯罪や貧困などの理由により親と暮らすことのできない子どもたちを受け入れ、生活支援を提供、さらには卒園した18歳以上の子どもたちの生活、教育、医療、就労を支援する活動を継続しています。

「Ban Rom Sai Children's Home」は今年(11月)で開園20周年を迎える節目の年となり、ホームで暮らす24名の子どもたち(2019年8月末現在)に加え、18歳での卒園に伴い、園外で暮らす子ども合わせると総勢約80名の「大きな家族」に成長しました。

またバーンロムサイで創設以来継続して行っている地域住民との活動「地域プロジェクト」は、村からHIV/AIDSに対する偏見や差別がなくなるきっかけとなった大切な活動ですが、地域との交流を通して、子どもたちに様々な機会や選択肢を与えうる活動として、さらなる発展に向け尽力したいと思っております。

2 事業内容

(1) HIV感染孤児並びに社会的に弱い立場にある人々(被差別にある少数民族、貧困など苦境の中で生活する人々や子どもたち等)への支援事業

- 1) 子どもたちのための生活施設(Ban Rom Sai Children's Home)運営の経済的・人的支援事業(2019年8月31日現在、在園児童は24名)

Ban Rom Sai Children's Homeの運営に係る経済的支援を行うとともに、現地Banyan Home財団と協働し、人的支援事業を行っています。寄付金が減少しているなか、収益事業を通じた収入が一層重要なものとなっており、18期は更に注力するとともに、寄付金や助成金獲得についても積極的に取り組む予定です。また、人的支援事業については、子どもの年齢や能力に合わせた教育支援や生活指導等も含むため、現地財団タイ人スタッフとの連携を保ちながら、支援を継続していきたいと思っております。

- 2) HIV感染孤児並びに社会的に弱い立場にある人々に対する支援事業

- ① 周辺貧困地域の子どもたち、HIV感染児へのスカラシップ事業(通年実施、裨益者10名)

卒園生のうち就学中の子ども(5名)、また周辺地域のHIV感染児童(5名)に対し、生活及び学業の経済的支援を行っています。

17期は2名の子どもが18歳を迎え卒園しましたが、それぞれに志していた大学に進学することができ、彼らが卒業するまで支援を継続予定です。

- ② 18歳以上で卒園する子ども(HIV母子感染孤児)がAIDSを発症した場合の医療費及び生活支援、また必要に応じて一時シェルターの提供(17期の裨益者1名)

16期に体調を崩した卒園生に対し、生活支援を提供しましたが、回復後の現在、バーンロムサイジャパンが運営支援をするゲストハウス hoshihana village にて就労中。生活面などで、必要な支援を継続しています。

- ③ 地域プロジェクトを通じた地域支援・活性化、バーンロムサイの子どもたちとの交流

地域プロジェクトには下記のプロジェクトが含まれます：

- ・ 図書館プロジェクト（通年実施、裨益者年間延べ2,178名）
バーンロムサイ敷地内にある図書館は、平日の夕方、近隣子どもたちに開放しており、地域のコミュニティセンターのような役割を果たしています。
パソコンルームも開放しており、家庭にパソコンがない子どもたちが宿題をする場所としても活用されています。図書館運営アシスタントには、職業訓練も兼ね地域の子どもを採用しています。
また図書館では識字率の向上、読書推進を目的とした「読書感想文コンクール」や「タイの重要な日 塗り絵コンクール」を実施しています。

「読書感想文コンクール」（通年実施、裨益者年間のべ406名）
読書の楽しみを知り、本の要点を理解しそれを文章にすること、また観察力を養うことに重点を置き、継続して開催しています。タイ語の読み書きが苦手な少数民族の子どもに対しては読み書きの指導も行っています。

「タイの重要な日 塗り絵コンクール」（毎月実施、裨益者年間のべ461名）
参加を通して、子どもたちは歴史を正しく理解し、タイの重要な日の内容、重要性を説明することができるようになっていきます。タイの文化を継承していくことを目的とし、継続して開催しています。

- ・ スポーツプロジェクト（サッカー、バレーボール）
技術向上だけではなく、子どものスポーツマンシップや協調性を育むこと、また地域との交流を主目的として活動しています。

「サッカープロジェクト」（毎週末実施、裨益者年間のべ40名）
男子児童を対象とし、外部指導者による出張レッスンなども交えながら、継続して活動しています。バーンロムサイの子どもと地域の子どもが一緒になってスポーツを楽しみ、交流を持つことが最大の目的ともいえるこのプロジェクトでは、地域のトーナメントへも積極的に参加しており、好成績を収めています。

「バレーボールプロジェクト」（毎週末実施、裨益者年間のべ16名）
タイでは、女子児童が休みの日以外に出てスポーツをすることはあまり一般的ではありませんが、女子児童にとっても定期的に運動することは、身体面、精神面の成長を促すうえで効果的な手段であるとの考えから始まった女子バレーボールプロジェクトも3年目を迎えました。地域の人たちにも少しずつ認知され、近隣の子どもの参加するようになってきました。

- ・ チェンマイ県・オムゴイ郡山岳民族への支援活動（2018年12月に実施）
バーンロムサイは、複数の団体が協働でチェンマイ県南部オムゴイ郡の村に物資を届けに行く山岳民族支援プロジェクトに参加しています。
今年度はサギン・タイ村、ファイソム村、メーロン村、ファイクワン村に直接物資を届け、また物資運搬を別団体に委託したファイカヌン村、パーデー村、ピッサロン村、パビアオ村も含めると、計650組の毛布、医薬品、食料品、防寒具、文具などを寄付しました。

本活動は、外部からの支援はほとんどなく、政府から補助があったとしても、IDを持っている人の分しか支給されない、という厳しい生活環境に暮らす山岳民族の人たちに必要な物資を届けるという目的の他に、バーンロムサイの子どもたちも参加させ、視野を広げてほしいと願いも込められています。

3) HIV 感染者、エイズ患者、少数民族出身者また社会的に弱い立場にある人々に対しての収益事業を通じたサポート

- ① 社会的に弱い立場にある人々に対する就労訓練や就業機会の提供

バーンロムサイジャパンが企画・運営支援を行う、バーンロムサイプロダクツの縫製場やゲストハウスにおいて、未だ残る偏見により、就職することが難しい HIV 感染者、エイズ患者、少数民族出身者を積極的に採用しています。

② 日本国内の障がい者への作業委託

バーンロムサイプロダクツの製作過程の一部を日本国内の障がい者授産施設へ作業を委託することで、国内の障がい者を支援しています。

③ 少数民族の伝統工芸品・技術の保持を目的とした商品の紹介、販売/提供

バーンロムサイジャパンが企画・運営支援を行う、バーンロムサイプロダクツの縫製場では、少数民族の古布を商品にリメイクしたり、織りや染めを採用するなど積極的に彼らに伝わる技術を取り入れています。またゲストハウスでは、少数民族の伝統料理をレストランで提供することで、彼らの文化を紹介しています。

(2) 芸術・文化・創作活動による、HIV/AIDS 等社会的課題に関する普及啓発活動

1) HIV 感染児童らが描いた絵画をモチーフにした商品の展示・販売による啓発活動

カード類、T シャツ、ポーチなど幅広く展開しており、チャリティイベントをはじめ、日本・タイ各地で展示販売をしました。

2) チェンマイにある縫製場で働く HIV 感染者ならびに少数民族出身者による製作物の展示販売による啓発活動

特に 2019 年 2 月には都内にて「Under the Tree 大きな木の下のものづくり展」と題し、手作業で作られた衣類や雑貨の展示販売イベントを開催し、多くの方にバーンロムサイの商品だけでなく、活動内容や手工芸技術にも触れていただく機会となりました。

3) 映像、写真やパネル展示を通じた活動紹介

4) 創作活動を通じたアートセラピーの実践やワークショップの開催

2019 年 6 月にはアーティストの山口洋佑氏が現地に 3 週間滞在し、子どもたちと絵画ワークショップを開催しました。

(3) その他

1) 国内外でのイベント、高校・大学、各種団体からのスタディーツアー受け入れ等を通じた HIV/AIDS に関する啓発活動 (17 期のスタディーツアー、団体の受け入れは 12 件)

2) 国内外におけるファンドレイジング

3) タイ北部の手仕事・技術・アートを生かしたものづくり及びゲストハウスの企画・運営支援

4) 収益事業 (プロダクツ事業)

直営のバーンロムサイ鎌倉ショップ、オンラインショップ、また日本各地で開催される企画展 (17 期は 36 か所にて開催) を通じて、生活施設に隣接する縫製場で製作する衣類、雑貨類の紹介と販売事業を行っています。